

1 教科の到達目標（学習のねらい、身に付けたい力）

- 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2 年間学習計画と単元（題材）

学期	月	題材名・単元名	内容	達成目標(ねらい)
1 学期	4	<表現/デザイン> 模写を使った壁新聞	・2年生で製作した模写を使用し壁新聞を作成する。タブレットで作者と作品について調べる。	見やすく興味をもてるような壁新聞を作成する。 作者と作品について自分なりに分かりやすくまとめている。
	5			
	6	<鑑賞> 仏像に宿る心を感じる	・仏像について調べレポートにする。	読みやすいレポートを作成する 仏像を通して日本の美術文化について知る。
2 学期	7	<表現/絵画> スクラッチ	・スクラッチの技法を用いて作品にする。	スクラッチの特徴と技法を理解し、特徴を生かしたデザインと制作にあたることができる。
	9			
	10	<表現/絵画> 自画像	・自分らしさについて考え、自己を見つめ直す。 ・人物を描くときの注意点を学び細部まで丁寧に観察し捉える	・自己の内面を捉える表現をしている。 ・人物の各部の正しい比率を表現できている。
	11			
12				
3 学期	1 2 3	<表現/彫刻>	・紙粘土で自分の好きな食べ物を作りキーホルダーにする。	リアルに表現でき、キーホルダーの組み立てが上手にできる。

3 評価方法

各観点	評価規準	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・制作用具の基本的な扱い方を理解し、正しく使って自分の思い通りの作品に仕上げる力。 ・テーマの意味や素材の特徴を理解し、自分の作品に生かし仕上げる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・作品 ・ワークシート ・レポート ・期末考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ものをよく見る力、気づき発見する力。 ・豊かな感情や考え、空想力や想像力を広げイメージする力。 ・新しいもの、斬新なもの、ユニークなものを考え出す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・作品 ・ワークシート ・期末考査
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いものを作り出そうとする態度。 ・課題の理解から完成した作品まで、良い表現のため工夫や方法を導き出そうとする姿勢。 ・自他の作品に愛着をもち大切にしようとする気持ち。 ・授業中に行うことに対しての知識と理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・作品 ・ワークシート ・提出物、忘れ物 ・期末考査

4 授業の取組についてのアドバイス

○授業の受け方と心構え

- ・「授業は学びの場」であることを忘れずに、集中して自分の課題、作業に取り組みましょう。また、他の人の集中のさまたげにならないように注意しましょう。

○授業に準備するもの

- ・教科書・資料集・筆記用具（鉛筆、消しゴムを必ず用意してください。）以上3点が基本的な持ち物です。その他、用意するものがあれば事前に授業で連絡します。
- ・限られた時間を大切に使うために、忘れものないようにしてください。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・美術の時間は週に1時間しかありません。課題に対しての、アイデアや構想は美術の時間だけでは不足がちです。授業中で考えたことは家庭学習でまとめておき、次の時間にスムーズに入れるようにしておきましょう。
- ・普段の生活の中から、課題を常に意識をして「おもしろいもの、たのしいもの、きれいなもの」など、参考になりそうなものを記憶に留めておきましょう。できれば、写真に撮っておいたり、スケッチしたりして、自分なりの参考資料を増やしておきましょう。

6 定期テスト前の取り組みについてのアドバイス

- ・美術のテストは課題、目的、内容、実習方法などの授業中の確認事項が主になります。教科書・資料集・プリント・ワークシート・板書などを復習しておきましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

- ・「絵には自信がなく、美術は苦手」と思う人がいるかと思いますが、大切なのは「絵が上手」なことではなく「より良くなろうと努力する」ことです。表面上の上手、下手に憂うことなく、地道な努力を重ねましょう。このことが技術面の向上につながり、内面的にも成長することになります。練習することで上手になり、続けることで上達します。あきらめることなく粘り強く頑張りましょう。
- ・技術面も大切ですが、発想の豊かさも重要です。常日頃から自然や物を観察したり、物事について広く深く考えたり、想像したりする習慣を身に付けましょう。